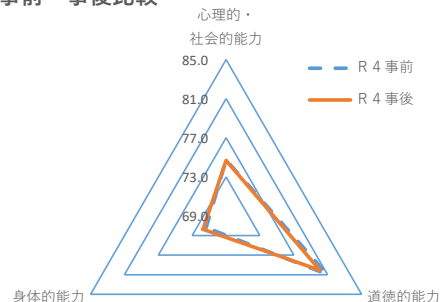


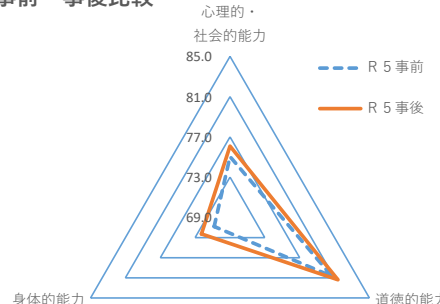
令和5年度 小学校セカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	127.3	63.0	38.7	25.5
	割合 (%)	75.8	75.0	80.7	70.8
R 5 事後	得点	129.0	63.9	39.1	26.0
	割合 (%)	76.8	76.1	81.4	72.3
R 4 事前	得点	127.3	62.8	38.8	25.7
	割合 (%)	75.8	74.7	80.9	71.4
R 4 事後	得点	127.0	62.7	38.4	25.8
	割合 (%)	75.6	74.7	80.1	71.7
	得点範囲	28～168	14～84	8～48	6～36

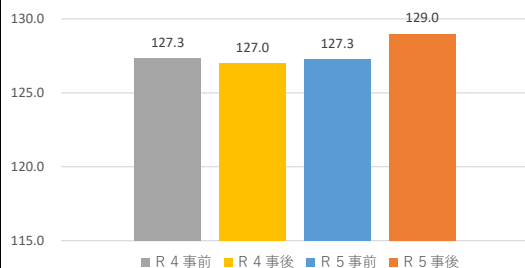
R 4 事前・事後比較



R 5 事前・事後比較



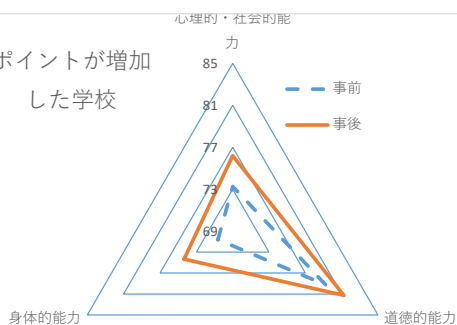
「生きる力」の変容



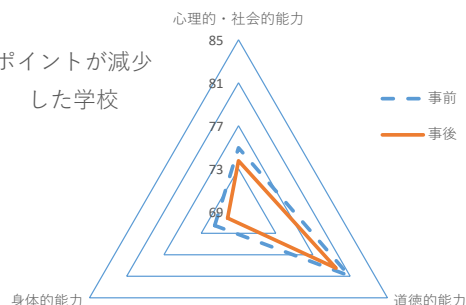
◎全体的な特徴や成果の分析

- ・令和4年度プレセカンド結果では「生きる力」にはば変容が見られなかったが、令和5年度になり「生きる力」が上昇した。セカンドスクールになり、日数が伸びたことで、自然体験、探究学習など学びや集団生活での人間関係の深まりを経験したことが影響したと考えられる。
- ・3観点を比較した際に令和4年度、令和5年度ともに道徳的能力のポイントが高いことが分かり、集団生活では「自己規制」「思いやり」が必要となる機会が多く、自己の成長への影響が高いことが分かる。
- ・3観点の中では身体能力のポイントが事前事後共に低い、伸びとしては一番大きい。規則正しい生活習慣や野外での活動を繰り返し行ったことが影響したと考えられる。

ポイントが増加した学校



ポイントが減少した学校



		心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	61.5	38.0	25.4
	割合 (%)	73.3	79.3	70.6
事後	得点	64.0	39.0	26.8
	割合 (%)	76.2	81.3	74.3

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・3項目すべての数値が向上した。特に心理的・社会的能力が向上した。
- ・向上した理由としては、長期宿泊体験を経験することで、友達との協力、集団生活での道徳的規範、多くの人の支えに気づき、感謝や達成感を感じたことで、自己の変容や成長を感じる結果となったと考えられる。
- ・身体能力は稲刈り体験を充実させたこと、心理的・社会的能力は話し合いや試行錯誤の時間を十分確保したことが、変容につながったと考えられる。

		心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	63.0	38.8	25.8
	割合 (%)	75.0	80.9	71.6
事後	得点	61.9	38.2	25.3
	割合 (%)	73.7	79.5	70.2

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

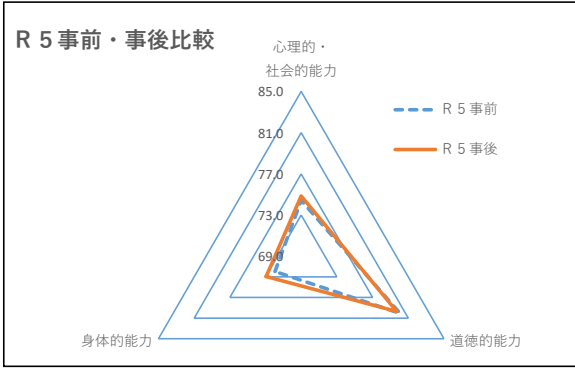
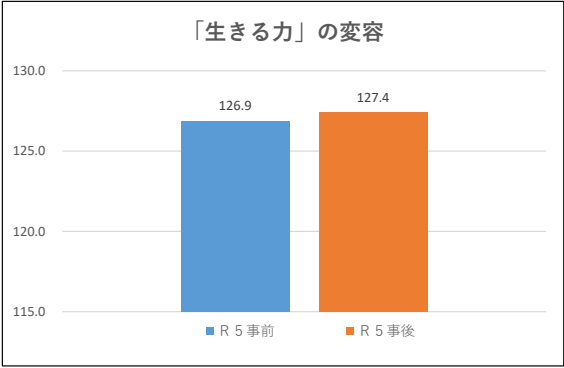
- ・インフルエンザ等により参加者や行程日数が減ったことにより、計画通りの内容を行うことができなかったことが減少に影響したと考えられる。現状の日数を確保することが必要だと考えられる。
- ・探究グループや宿ごとグループ、学年、学級と様々な関わり方を行ったことにより、道徳的能力の変化が少なかったのではないかと思います。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・全体を通して、時間に余裕をもった行程を設定したことで、児童が課題をじっくり深めたり話し合ったりする場面を多く設定することができる。そのために、プログラムの削減も検討するとよい。
- ・夜に語らいの会などの時間を設けることで、児童同士や宿の方と、普段離さないような話をすることができ、より深いかかわりの機会となる。
- ・「〇〇〇〇」という大きなテーマを設定し、繰り返し事前に指導をしたことにより、児童が目的意識をもって過ごすことができた。

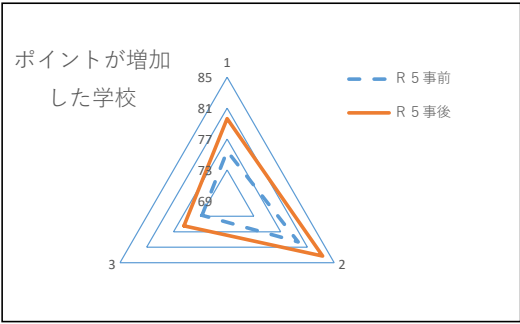
令和5年度 小学校プレセカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	126.9	62.5	38.4	25.9
	割合(%)	75.5	74.4	80.1	71.9
R 5 事後	得点	127.4	62.9	38.3	26.3
	割合(%)	75.8	74.9	79.7	72.9



◎全体的な特徴や成果の分析

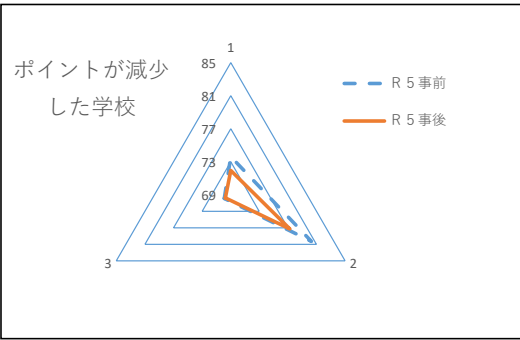
- ・令和5年度プレセカンド結果は3観点を合計した「生きる力」は微増しているが、ほぼ変容が見られなかった。
- ・各校の実態を分析すると、向上した学校と減少した学校に二分されていた。向上した学校は様々な経験を通して自信をつけ、自己肯定感が高まったといえる。減少した学校は、自分自身を客観的に見つめる機会ととらえた児童が多かったためであると考えられる。
- ・観点別には「道徳的能力」が事前事後ともに高い。理由としては、ファーストスクールでの教師の働きかけはプレセカンドの宿舎の生活にも共通しており、子どもたちはプレセカンドにおいて集団生活の在り方や、自己規制の大切さをファーストスクールと同じように実感したからだと考えられる。



		心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	63.4	38.2	26.2
	割合(%)	75.4	79.6	72.7
事後	得点	66.9	40.0	27.2
	割合(%)	79.6	83.3	75.4

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・それぞれの項目において、大きな変容が見られた。
- ・身体的能力については、トレッキングで登り切った経験から自信が高まったと考えられる。
- ・心理的・社会的能力については、相互理解が進み、協調性や思いやりが育まれたからであろう。声を掛け合って自立して生活しようとする態度も多く見られ、できることを増やし、自信を付けることができた。



		心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	得点	61.8	38.5	25.2
	割合(%)	73.6	80.3	69.9
事後	得点	60.4	37.1	25.1
	割合(%)	71.9	77.3	69.7

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

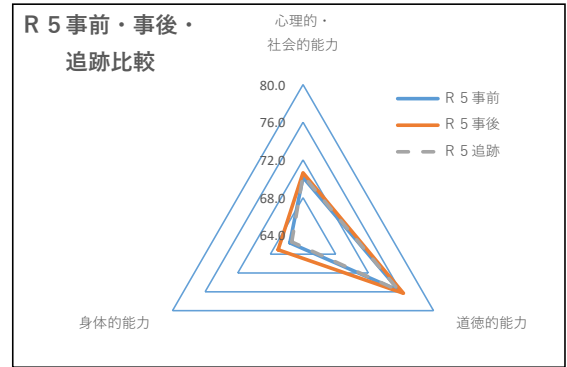
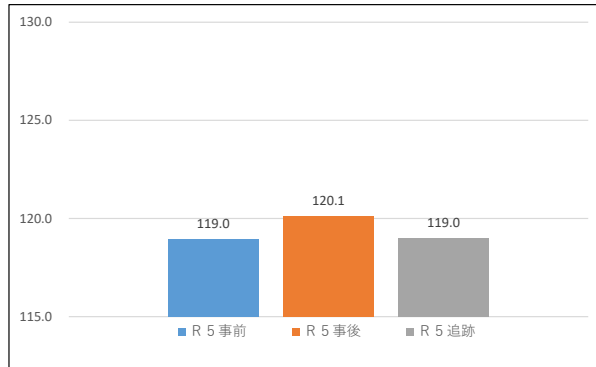
- ・全体的に、実施前から実施後に数値が減少する結果になった。初めての宿泊行事であり、思うようにいかない状況から、自分自身に対する客観的な理解が深まったと考えられる。
- ・児童の振り返りから「以前よりも友達と協力できるようになった」、「自分のことを自分でできた」という声もあり、自分自身の成長を実感している様子が見られる。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・集団生活のマナーやルールについて経験を通して学ぶことはセカンドスクールにつながるが、個人差が大きいため、事前に自宅での実践など保護者と連携するとよい。
- ・児童の体力面の実態に応じてトレッキングコースを短くしたり内容を変更したりすることで、児童にとって充実した生活を送ることができる。
- ・2泊3日では、課題解決に至らない学習内容があったので課題設定には留意が必要である。
- ・宿泊先によっては、宿の方との関わりが少ない場所もあったため、セカンドスクールを意識した集団宿泊活動につながりずらかったので検討したい。

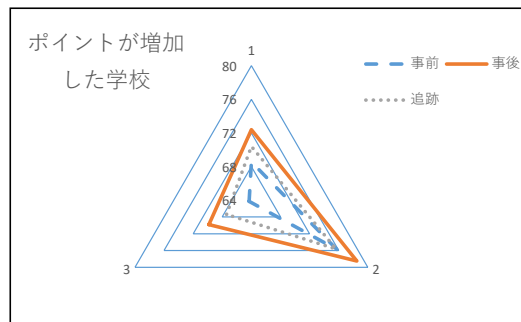
令和5年度 中学校セカンドスクール 事業評価 結果

		「生きる力」	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
R 5 事前	得点	119.0	58.9	36.4	23.6
	割合(%)	70.8	70.2	75.8	65.6
R 5 事後	得点	120.1	59.3	36.6	24.1
	割合(%)	71.5	70.6	76.3	67.1
R 5 追跡	得点	119.0	59.1	36.4	23.5
	割合(%)	70.8	70.4	75.8	65.4



◎全体的な特徴や成果の分析

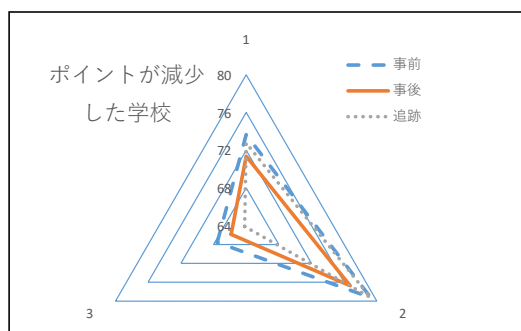
- ・「生きる力」のポイントは、事前調査から事後調査にかけて向上が見られる一方で追跡調査において、ポイントが戻ることが分かる。ファーストスクールで継続した自己肯定感を実感する指導が求められる。
- ・プレセカンドやセカンドと比較すると、総じてポイントが低いことは、自分自身を客観的に見つめ、厳しく評価している傾向が分かる。
- ・「身体的能力」において、事後調査の伸び率が高く、カヌーやトレッキングなどの自然体験学習や規則正しい生活習慣は、生徒に好影響を与えたことが分かる。



	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	57.6	36.4	23.2
事後	60.8	37.7	25.1
追跡	59.1	36.3	24.3

●ポイントが増加した学校の特徴や分析

- ・事前から事後では、すべての項目において数値が上がった。今年度の農村生活体験が生徒たちに与えた影響は大きかったのではないかと考えられる。
- ・自然との直接体験やインストラクターの説明が、子どもの意欲を高め新たな視点に気づき思考を広げることにつながった。



	心理的・社会的能力	道徳的能力	身体的能力
事前	73.7	79.3	67.5
事後	71.4	76.7	65.8
追跡	72.8	79.2	64.2

●ポイントが減少した学校の特徴や分析

- ・宿舎での生活で各自が責任をもって係の仕事を行い、他者を思いやりながら共同生活ができた。
- ・生徒の「生きる力」の変容が事前から事後にかけて低下したが、各質問についての平均に注目すると、3（あまりあてはまらない）を下回るものではなく、生徒の「生きる力」や自己肯定感について、良好な結果だと考えられる。

◆次年度への引継ぎや改善点等

- ・セカンドスクールで探究する課題を中学校生活を見通した総合的な学習の時間や武蔵野市民科等において、計画的継続的に取り上げ探究サイクルを積み上げていく。
- ・次年度教員と連携をとって計画を作成することで、スムーズな行程、事前事後学習との関連、学年全体の共有などの充実を図ることにつながる。